

「防火技術者」は日本ではどうあるべきか？

建築基準法の性能規定化に伴い、日本においても防火関係の性能設計が進んでいる。その際に防火技術者が関与しながら計画を練ったり、実施設計を進めたり、性能評価などの申請用資料が作成されている。このように重要な業務を担っているが、その職能が確立しているとは言いがたい。

防火委員会・防火技術職能検討 WG はその職能・倫理などについて検討を進めてきたが、広く識者の意見を聞く場を設けて、海外の例や行政関係者などの意見も求め、これからの「日本の防火技術者」のあり方を探りたい。

主催 社団法人 日本建築学会 防火委員会

後援 東京理科大学 COE

NPO 法人 日本防火技術者協会

SFPE(防火技術者協会)日本支部

日時 2006年 1月23日(月) 13:30～17:30

会場 東京理科大学・森戸記念館(JR および地下鉄飯田橋駅下車)

内容 司会・主旨説明： 富松太基(防火技術職能検討WG主査・日本設計)
1. 日本の現状 佐藤博臣(NPO法人日本防火技術者協会)
2. 海外では 関沢愛(東京大学)
3. 日本での地位は 中島秀男(明野設備研究所)
4. 防火技術者に期待すること 河崎和夫(東京消防庁)
5. 東京理科大学COEと教育について 水野雅之(東京理科大学総合研究所)
6. 討論
まとめ 室崎益輝(防火委員長・独立行政法人消防研究所)

定員 40名

参加費 会員 1,000円、登録メンバー1,100円、

会員外 1,500円、後援団体 1,200円、学生 800円 *当日徴収

申込方法 当日先着順 (定員になり次第締め切り)